

### 三の丸(三の丸)

大手門のすぐ内側の大きな広場はかつて多くの屋敷が建てられていた。三の丸（三の丸）として知られるこのエリアは姫路藩政の中心地であり、城主とその家臣たちが長い時間を過ごし、公務にあたり、プライベートな時間を過ごす場所であった。1617年から1639年まで城主だった本多家によって建てられた茶室、泉水式庭園を含む豪華で広大な御殿群である。幅21メートルもある立派な大通りが、御殿群から堂々とそびえる真っ白な大天守に向かって整備されていた。

明治時代（1868-1912）日本政府は姫路城を陸軍基地に変え、全ての御殿を撤去し、兵舎を整備した。現在、2列のグレーの敷石がかつての大通りや明治以前の建造物の基礎だった場所を示す位置にはめ込まれている。